



地域の助け合いを維持する実証実験

～養父の助け合う人の電子掲示板を地域実装する～

能登半島地震を受けて地域自治組織関係者からの言葉
自治会の一番の目的は地域で助け合える関係を
日常からつくっていくことだ

ためま株式会社

×

養父市 デジタルファースト課

背景・目的（何のための実証か）

＜当初（WEBページ公開時）の課題・目的＞

1. 地域自治組織の担い手不足
2. 地域自治組織のイベント等の広報不足

地域自治組織は
自治協・自治会などいろいろな
呼び方があるが、今回の実証で
は「地域自治組織」で統一



※協働プロジェクトの議論を経て、実証で検証する課題を再設定

＜大目的＞

- 地域の「助け合い」を維持したい

＜中目的＞

- 地域自治組織を維持し続ける ← 仮止めで課題を公開
広報・業務の整理
- 地域自治組織内外の人の助け合いの仕組み、仕掛けがあるといい
※議論を経て再設定（養父市）

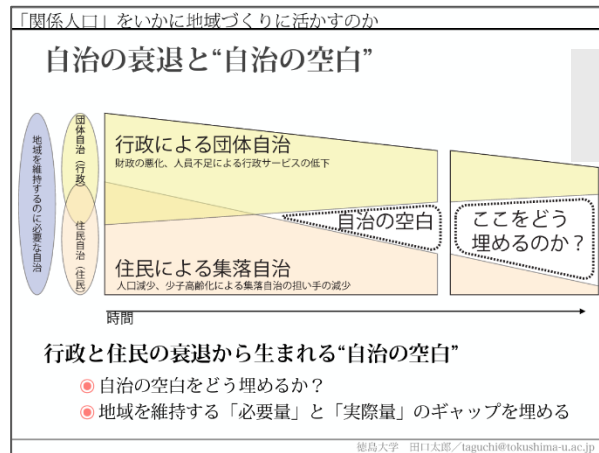


<前提> 「助け合い」のためまの考え方について

「助け合い」にはいろいろな形があるが、
「情報を発信すること」自体も「助け合い」のカタチの一つ。

その先に参加やつながりが生まれ、次の助け合いになる最初の必須要素であると認識している

- 現代は生活スタイルも変り、さらに情報の形式が多様化していることが、地域課題を複雑にする原因になっている
- 平時から情報発信をしていれば、災害など緊急時にもスムーズに情報の共有ができるなど



自治の空白が
「助け合い」の減少に

https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/seminar/pdf/seminar20220126/distribution/r04_02_soumu.pdf

徳島大学 田口太郎氏
地方自治研究学会 2024.03.04 会議より



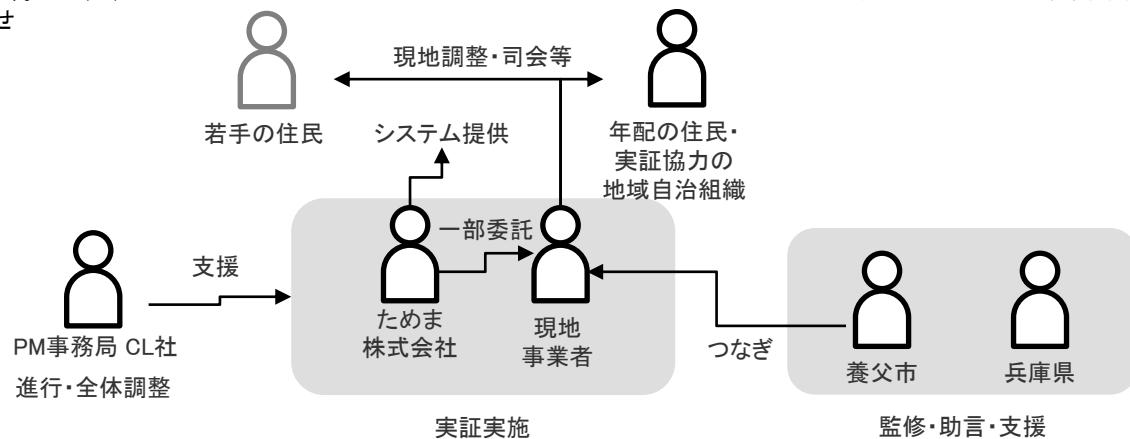
実証実験の体制・役割分担



関宮校区ウォークラリー参加 2023年 11月19日(日)
地域になじむ・現地事業者と初顔合わせ



40、50代 地域自治組織関係者インタビュー 12月18日(月)



ヒアリング・意見交換会を経た実証実験の設計

今回の検証エリア：
大谷校区に絞る

投稿/閲覧時の
心理的抵抗が
ある

①心理的抵抗の
の正体が
分かっている

②心理的抵抗の
解決策の仮説が
見えている

③いくつかの
施策がトライアルで
実施・実装されている

④施策の有効性/
確からしさが
検証されている

12/18@大屋・大谷 意見公開会 ~ 12月中

1月

2月

市民への傾聴より

<心理的抵抗の正体>

<解決策(仮)>

若め
年配

そもそも
よく知らない

(※副次的に) 認知普及 (知る機会) の増強

若め

今は使いたいと思う
メリットを感じない

- HPのトップバナー (済)
- PR動画?
- 役場窓口での声かけ?
- 市からの紙広報?

- マニュアル資料の作成・提供 (済)
- 現地事業者によるフォローアップ・週一打合せ

- PR動画 (別予算)?
- 1月の市の広報で発信?
- 学校で全校配布?

若め

見る人が少なければ
載せても意味ない

①特定カテゴリのコンテンツ充足

若め

LINEや口コミで届く人だけで
よいと思っている

- 公開OK/NGの投稿内容整理 (済)
- ニーズの高い情報のカテゴリ分け (済)

- 特定カテゴリのコンテンツ充足 → 子育て情報を優先

若め

★ 高齢世代はスマホを
使えないし、地域自治組織
ではフォローしきれない

②見守り機能の実装

年配

★ 使い始める
きっかけがない

- 実装機能の検討
- 投稿範囲設定機能 → 別予算で実装?

- 見守り機能の実装 (1月前半) ※大谷のみ

年配

★ 操作が難しそう

(※副次的に) サポート体制の構築

年配

★ スマホを触る
習慣がない

- 市役所内の相談・サポート窓口?
- スマホ教室?

★ 投稿が載るのが
恥ずかしい

これらの効果として

何をもって
「心理的抵抗が減った」
「地域へのコミット意識
が変化した」
と判断するか?

※定量・定性の両面で成果を測る

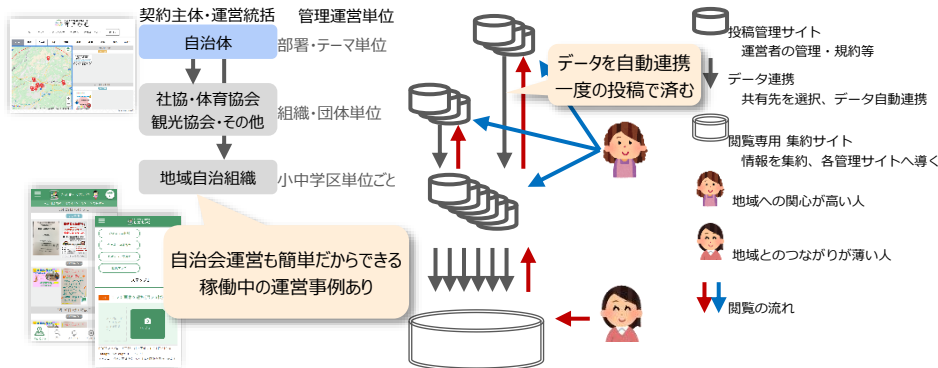
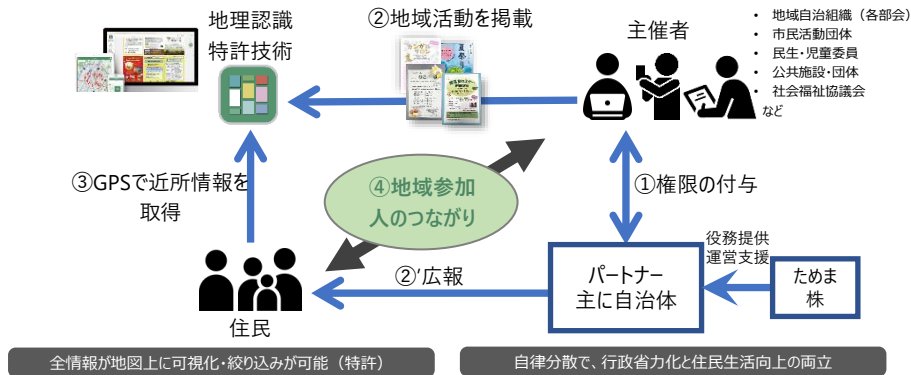
<定性>
2月中旬に対象者10名に
アンケートを取る

<定量>
● 投稿の数が●件増えている

市民の声から、まずは掲示板を知って触ってもらう「きっかけ」となる見守り機能の実装をすることに決定!

多世代の情報共有のツール（特許WEB掲示板の説明1）

やぶる掲示板（ためまっぷ） サービス全体像



子育て支援 就労・起業 高齢福祉 教育・着地点 観光・関係人口 SDGs、その他

Step1

撮る



Step2

イベント情報入力



開催日や場所情報、
カテゴリを選択



Step3

公開



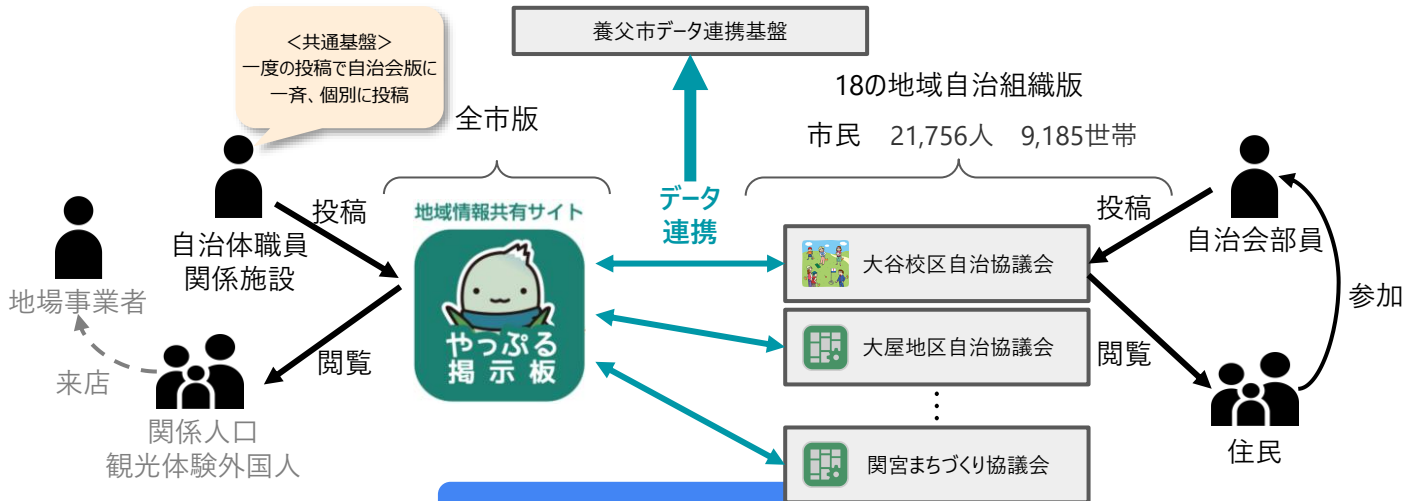
簡単な投稿

地理認識
特許技術

移動可能範囲で
情報を探す



多世代の情報共有のツール（特許WEB掲示板の説明2）



地域情報共有サイト
『やっふる掲示板』で
近所のイベントがまるわかり!

見たいときに

・スマホでもPCでもOK!
・イベントチラシを時系列で!

行きたいときに

・地図上で今いる場所から近所のイベントを検索!

誰でも簡単投稿

- ・チラシを写真に撮れば数ステップで簡単投稿!
- ・投稿は、同じ地域自治組織内の人だけに共有されるので、安心!

例えばこんな情報が投稿・閲覧できます!

- ・ボランティア募集
- ・お家の不用品毎々交換
- ・フリーマーケット
- ・子育て広場
- ・お祭り案内
- ・自治会
- ・雨天中止連絡 など

市民ポータルサイト「やっふる掲示板」

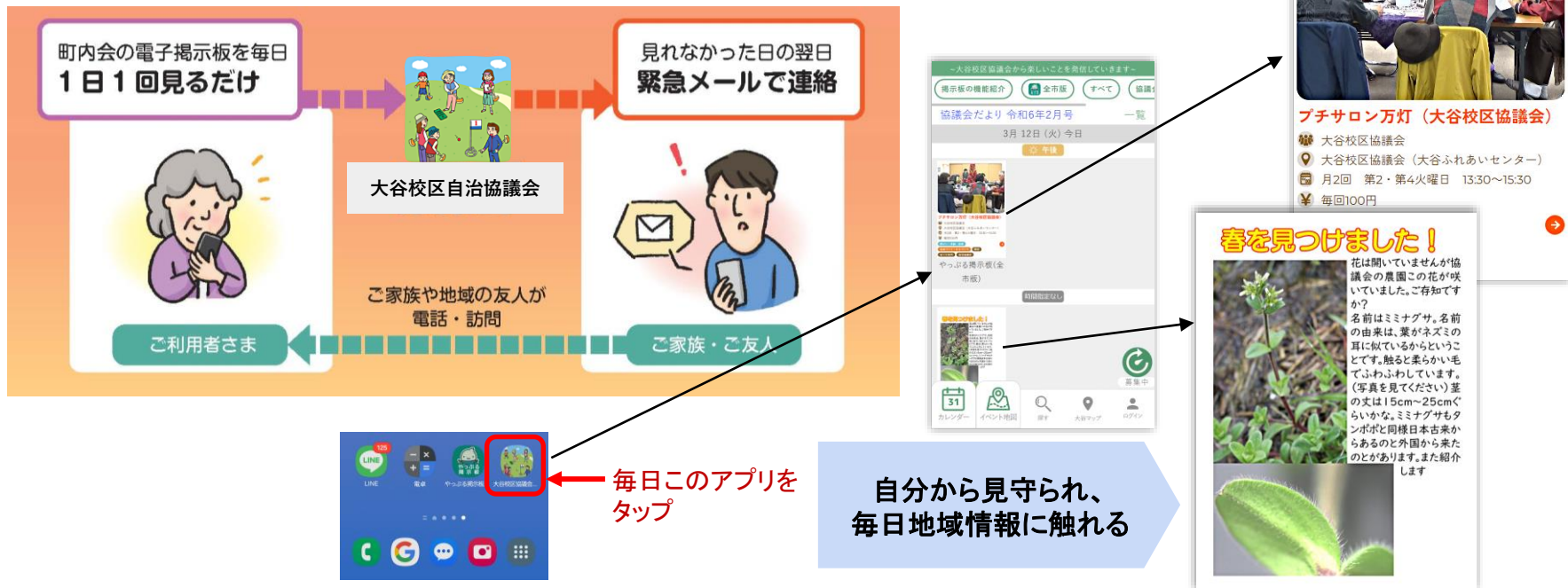
- | | | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|-------------|
| 八鹿地区自治協議会 | 小佐地区自治協議会 | 高柳地区自治協議会 | 伊佐校区自治協議会 | 宿南地区自治協議会 |
| 建屋校区自治協議会 | 三谷校区自治協議会 | 浅野校区自治協議会 | 広谷校区自治協議会 | 養父校区自治協議会 |
| 口大屋自治協議会 | 大屋地区自治協議会 | 南谷自治協議会 | 西谷自治会 | 大谷校区協議会(公開) |
| 関宮まちづくり協議会 | 出合校区協議会 | 熊次地区自治協議会 | | |

実証実験の概要（実際には何をやったか）

アクション①見守りサービスの実証実験（地域自治組織発信のインセンティブとして）

実証に使用したサービス・システム

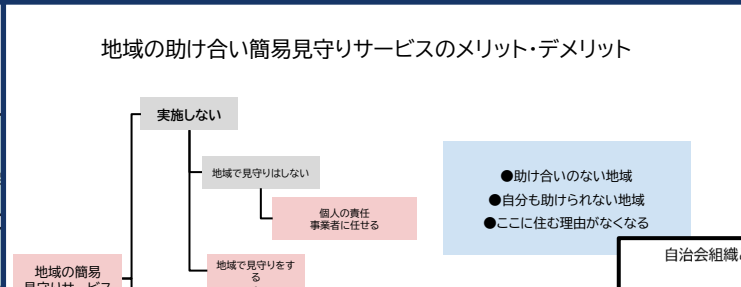
地域参加掲示板「やっふる掲示板」とその見守りサービス



実証実験の概要（見守りサービスについて）

アクション①見守りサービスの実証実験

見守りサービス管理者	やらないといけないこと	誰がする
やること		
見守りサイトの周知 ・関係各所（地域自治組織役員、社協、市役所、地域包括など） ・地域内の住民（地域自治組織会員、非会員）		・事務局 ・専任の人材確保
見守りサイトの契約 ・契約書作成、発行、回収 ・契約者、契約者家族へ		・事務局



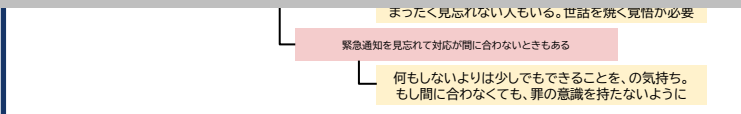
自治会組織と、組織内の意思決定フロー 自治会内での見守りサービスの始め方

見守りの実証にあたり準備したシステム・資料

- 大谷校区用の見守りサービス・システム
- 大谷校区用の見守りシステム・マニュアル
- 住民説明用の見守りサービスのチラシ
- 地域自治組織が見守りサービスを運用する際の免責事項同意書(案) 兼 申込書(案)
- 見守りを実施する場合の住民の役割等の資料
- 見守り実施の有無それぞれのメリット、デメリットの資料

見守りサイト使用者導 ・個別 QR コード発行 ・連絡先登録（見守り人） ・スマホのホーム画面登
見守りサイト毎日の見 ・エラーの確認、警告ハ
警告時の対応 ・見守り人への連絡 家族、親戚等への連 （いつ連絡するのか？） ・家族親戚からの安否連 （いつ連絡してもらう） ・見守られる人、本人と

課題：
 ・従事する人の確保
 ・有償、無償をどうするか？有償の場合、どこからお金を工面するのか？
 ・持続可能な仕組みにできるか？



周知、契約(免責事項)、スマホの登録の通知を行う家族がない場合
 何を相談していくかを決める。
 など、日々の見守りの緊急時の連絡
 取ったり、緊急の対応を行う担当が
 担や行動が必要になるのがある
 取納してできる方法の検討を進め
 事前にすべてはわからないので、試
 いう立て付けで余白を持たせる。
 会内で合意して、部会長から企画委
 議として上げる。
 会で検討して承認を待てる。
 会で各部会長も決めた最終実施の
 する。
 対象にならなくても、
 に進めていく方針がよい
 々調整していくのでないと

実証実験の概要（実際に何をやったか）

アクション①見守りサービスの実証実験
(地域自治組織発信のインセンティブとして)

対象70代～80代
男女 10名+1名
21日間の見守り運用体験



大谷校区 見守りアンケート回収
2024年 2月14日(水) 13:00～18:00
個別に運営者や利用者の声を聴取

アクション②掲示板未利用者
(40～50代ターゲット)へのアンケート

対象40代～50代中心

①で聞けなかった
世代への意識の確
認のため追加実施

地域・地域の情報（地図）で選択したものを伝えたいときに、あなたがスマホ
掲示板に情報を投稿・転載する場合、次の①～⑥のうちあなたが一番大きなハードルになり
ますか？順位付けて上位3つを教えてください（上位3つを記入）

- ① 難しい！面倒！
- ② 投稿する理由（メリット）がわからない！
- ③ 怖い！心配！
- ④ 恥ずかしい！気まずい！
- ⑤ 投稿しても意味なさそう！
- ⑥ その他

5. 上記で1位（一番大きなハードル）を選択した理由を教えてください（○で選択）

6. 公開範囲（あなたが投稿した内容の閲覧できる人）についてはどう思っていますか（○で選択）

- a. 自治体内限定が良い。範囲での公開と、安心感がある
- b. 自治体全体にだけや欲しいので、県内や市県限定の範囲が良い
- c. 高谷市内限定で公開するが、他市にも発信したいが完全匿名にするのを使いたい
- d. すべて全国発信（＝県外以外から見られても）問題ない

7. 昔ながら地域のイベントや集まりに参加していますか（○で選択）

- a. 頻繁に参加している
- b. 時々参加している
- c. 以前は参加していたが、最近はあまり参加していない
- d. ほとんど参加できていない

8. スマホ掲示板で今似たような地域の地域情報発信が実現された場合、あなたが地域行事や交流の場などに参加する頻度は増えると思いますか（○で選択）

- a. 大幅に増えると思う
- b. 多少増えると思う
- c. あまり変化はないと思う
- d. 全く変わらない

9. ぜひ地域の助け合いや日々の情報交換に役立てたいと考えています。今スマホ掲示板を活用して、あなたたちに伝わりやすいような情報の発信をし、活用してみたいと考えますか。ぜひアイデアをもらえませんか？（自由記述）

例：〇〇の画像をもらってほしい、両年代の方をお声かけするときに欲しいなど

※アンケートはスマートフォンのアプリで回収し、集約して取り扱っています。個人情報は守ります。

実証実験の結果（概論）

アクション①見守りサービスの実証実験（地域自治組織発信のインセンティブとしての効果検証）

見守り利用後の利用者アンケートにて

1. 利用継続意欲 70%以上（定量）
2. 高齢な利用者のデジタルへの意識変容、行動変容が20%以上（定量）
3. 1,2により運営者の運用継続意欲が見いだせること（定性）
⇒最終的には情報発信の助け合いが行われる見込みが立つこと



1. 地域参加掲示板を活用した見守り実証サービスの利用継続意欲 100%（目標達成率1.43倍）
2. スマホ利用の明確な意識・行動変容 40%（目標達成率2倍）、地域への関心 60%が向上
3. 実証した地域自治組織は、電子掲示板運用を継続し、見守りサービス導入に向けて取り組みを始めた（部会、総会等）

アクション②掲示板未利用者（40～50代ターゲット）へのアンケート

40～50代の掲示板未利用者へのアンケートにて

1. 「現在の情報入手方法」と「何に関心を持つ層が多いのか」が分かること（定量）
2. それにより「どこにどんな情報を流せば地域に関心を持ってそうか」仮説が立てられること（定性）
3. 担い手となる人はどうすれば増やせそうかが仮説が立てられること（定性）



1. 地域イベント情報のニーズが100%、子育て関連情報 67%、飲食店やお得な情報 33%、ボランティア情報 13%、貸館や障がいを持つ子育て支援の情報がそれぞれ一人ずつ
2. 公開と非公開の全市版、公開地域自治組織版の多階層の情報発信が有効（仮説）
3. 担い手に近い層の包摂的な意見を重視するコンテンツ構成で、無関心層にも徐々に波及する（仮説）

実証実験（掲示板未利用者アンケート）の結果（まとめ）

＜投稿を促進するためには＞

1. できるだけ「難しそう」と感じさせないよう、サポート体制や分かりやすいUI/UXを整備する
2. 投稿や閲覧が一定以上確保されているという状態をつくる
3. 50代以下では「怖い」「恥ずかしい」という理由も投稿のハードルになるため、「怖い」「恥ずかしい」という心理的なハードルについてはさらなる深掘りが必要
4. 発信・投稿しようとする人も、閲覧してもらえなければ、徐々に疲れてしまう。まず、一定以上の認知度や閲覧数を確保するための「ここを見れば分かるという、コンテンツが網羅されていること」が情報発信側も一般ユーザーにとっても重要
 - 50代以下の世代を地域に巻き込むきっかけを作るにあたって、コンテンツの充足が特に重要な施策と考えられる。
 - コンテンツの充足を検討する際に、具体的に両世代でニーズが高いのは、**地域参加(イベント)の情報**であることが分かる。加えて、**お得情報や飲食店情報など日々の暮らしに関わる情報**にもニーズがある。
 - 50代以下の世代は、**子育て情報などライフステージにあった情報**のニーズも高い。
5. 公開範囲は、「養父市内限定公開と全国発信の使い分けができること」のニーズが高い。この二つの使い分けを整備することができれば、幅広い層のニーズを一定満たせる
6. これらでカバーできない「地域自治組織内限定範囲の公開」については、見守り機能の実証と同様に、今後トライアルを重ねながらニーズや活用方法を引き続き検討する必要がある

今後の展開イメージ

10年以上かけて取り組む覚悟

デンマークのデジタル化は、システムの構築は1年で終わった。その後、導入し浸透するのに20年かかった。(ロスキレ大学 安岡美佳氏、Morten Elbæk Petersen)

